

学校法人 久留米工業大学

---

久留米工業大学

祐誠高等学校

専門学校 久留米自動車工科大学校

久留米自動車学校

専門学校 久留米自動車工科大学校教習部

学校法人 久留米工業大学

# 事業計画書

令和4年度

令和4年3月11日

---

理事会  
評議員会

## 目 次

■法人本部 .....	1
■久留米工業大学 .....	3
■祐誠高等学校 .....	5
■専門学校 久留米自動車工科大学校 .....	8
■久留米自動車学校 .....	10
■教習部 .....	12

## ■法人本部

### 概要

私立学校を取り巻く環境は、少子化の進行、急激なICTの進展、脱炭素社会に向けた取り組み、学校法人制度改革など大きく変化しています。さらには、コロナ禍における社会の在り方や教育環境の変化により一層の厳しさを増しています。

このような厳しい状況の中、本法人がこれからも持続的に経営を行っていくためには、法人としての総合力を向上させ、様々な環境の変化に適切かつ迅速に対応すること及び安定して成果を発揮できる組織体制を構築・維持して健全で安定的経営を確立する必要があります。

このため、法人としてのガバナンス機能の向上、業務改革の推進、財政基盤の確立及び組織体制の構築を図っていきます。

### I 法人ガバナンス機能の向上

#### 1. 理事会・評議員会・常任理事会のガバナンスの向上

##### ①法改正への適切な対応

- ・学校法人ガバナンス改革会議及び学校法人制度改革特別委員会の答申など、国の動きを的確に把握し、法改正等への適切な対応を図る
- ・文科省主催の法改正研修会などから情報収集を行う

##### ②適切な情報発信

- ・学校法人として積極的に情報を開示し、HPへの掲載方法等についても見直しを検討する
- ・法人職員への的確・適切な情報発信に努める

#### 2. 監査部門との連携強化

##### ①監事との連携

- ・常勤監事と理事長による定期ミーティングを実施し、連携を強化する
- ・監事と内部監査部門との情報共有を密にし、連携を強化する

##### ②公認会計士との連携

- ・年間を通して公認会計士監査を行うとともに連携を図って行く

##### ③内部監査の充実

- ・公的研究費などの内部監査を引き続き実施する。
- ・監事及び公認会計士と連携し、内部監査の充実を図る

### 3. 中期計画の進捗管理

#### ①実施計画の進捗管理

- ・実施計画の進捗状況の確認を行い、必要に応じて計画の修正等を検討・実施する

#### ②財政計画の進捗管理

- ・財政計画の進捗状況の確認を行い、必要に応じて計画の修正等を検討・実施する

### II 業務改革の推進

#### 1. 働き方改革等の推進

##### ①時間外労働の縮減

- ・職員の業務等について分析を行うほか、職員アンケート等も活用しながら、縮減に努める

##### ②多様な働き方の検討

- ・多様な働き方について調査等を行い、検討を図る

##### ③職場環境の整備

- ・職場環境について計画的に調査等を実施し、改善すべき点等について検討を行う

#### 2. 業務改善への取り組み

##### ①業務改善

- ・各職場での業務改善状況等についてフォローを行っていく

### 3. デジタル化の推進・検討

#### ①文書等のペーパーレス化

- ・ペーパーレスシステム化に向けて、電子決裁やタブレット端末等の導入、規程の見直しなど、様々な観点から検討を行う

#### ②電子帳簿保存法への対応

- ・電子帳簿保存に対応したシステム等について検討を行う

#### ③会議のオンライン化

- ・各種会議のオンライン実施に向けた課題等について抽出し、検討を行う

#### ④法人全体の広報

- ・主要道路案内看板の継続実施
- ・ホークスパートナーズによるバックネット広告実施
- ・西鉄バスでの音声案内、JRでのスタンド設置実施
- ・広報誌及びHPの運用
- ・SNSやweb広告など、ICTを活用した広報の検討

## | III | 財務基盤の確立

### 1. 精緻な予算管理

#### ①適切な予算編成

- ・法人本部による予算ヒアリング及び調整の実施
- ・理事長ヒアリングの実施

#### ②適切な執行管理体制

- ・事業の執行状況について、各学校でのチェック体制や状況を確認する

### 2. 収支の確保

#### ①学校部門での収支確保

- ・予算ヒアリング等による調整を行う
- ・学生等確保のため、法人全体の広報を実施し、全体としての知名度向上を図る

#### ②収益部門での収支確保

- ・収支状況を定期的に確認し、収支状況について各部門との連携の強化を図る

### 3. 安全で効果的な資産活用及び資産運用

#### ①資産の有効活用

- ・法人内資産の有効活用の観点から検討を行う

#### ②資金運用

- ・資金の安全かつ有効な活用の観点から、運用を行う

## | IV | 組織体制の構築

### 1. 人事マネジメント機能の充実

#### ①計画的な人事・採用・異動等

- ・新卒採用及び社会人採用を計画的に実施し、組織の新陳代謝や年齢構成等の平準化を図って行く

#### ②組織の活性化及び見直し

- ・業務の見直しを実施するとともに、組織の見直しもを行い、限られた人員の中で組織の活性化を図って行く

### 2. 人材育成

#### ①職階別研修

- ・職階別の研修を計画・実施する
- ・オンラインによる研修の導入を図り、研修の充実を図る

#### ②人権・ハラスメント等研修

- ・ハラスメント等の研修を計画・実施する
- ・部内研修等の実施により、各部署で必要なOJTを実施する
- ・オンラインによる研修の導入を図り、研修の充実を図る

## 概要

新型コロナウイルス感染症が世界中に拡大し2年余りが経過した。この間、本学においても学生の健康、経済、学修やサークル活動における問題が誘発され、学生の退学、休学の増加が見られるなど、大学運営にも少なからず影響を受けている状況である。

一方で、ICTを活用して大学教育をよりわかりやすく効果的に展開する試みも積極的に行われ、その取り組みの中で本学のデジタル教育が全国に認められるという成果も得られた。これからは、DX関連事業への需要の高まりに呼応してAI応用研究所を中心に、教育研究基盤の強化やデジタルと専門分野（ものづくり）の掛け合わせによる高度専門人材の育成に取り組み、地域との連携強化、地域課題の解決により地域からの信頼の獲得に努めることが極めて重要である。こうしたDX事業の展開は、すでに先行している研究ブランディング事業における社会実装の推進と並んで、地域貢献活動の重要な要素であり、地域に無くてはならない存在として評価されることが本学と他大学との差別化に繋がると期待できる。

コロナ禍の解消には一定期間を要し、また社会、経済環境はコロナ以前とは異なる様相となることが想定されるが、大学の有する知見や技術を最大限活用・発揮し、時代状況に適合した新しい教育研究手法（新常态）を構築し、更なる成果に繋げていく必要がある。

なお、今年度の教育学修環境の整備の大きな課題として、新教学システムの構築があり、円滑な導入に努めたい。また、不足している教室や、学生募集に繋がる魅力ある施設の整備に向けて、その計画づくりに取り組むたい。

## I 教育

### 1. 入学から卒業までの一貫した学生支援

- ・組織横断の教育学修データ利活用体制の構築
- ・次期教学システム用の学生データのデータベース化

### 2. 戦略的學生募集と多様な學生の受け入れ

- ・入試、入学前教育、初年次教育の連携について検討

- ・学生の成長ストーリー事例を蓄積、可視化する仕組みの検討
- ・受験生像を定義・共有し、本学の教育プログラムを検証
- ・過去の入試における志願、入学状況を踏まえて重点校を再定義

## 3. 教育内容の質的転換

- ・適切な開設授業科目数を検証し、カリキュラムの精選を検討
- ・学生の成長実感とディプロマポリシー、カリキュラムポリシーとの関連を検証
- ・地域連携型教育の改善とPBL連携先の更なる開拓
- ・大学院の一専攻化の可能性及びメリット、デメリットを検討

## 4. 学生支援の充実

- ・臨床心理士による学生の個別面談の充実及び支援の具体的な内容の検討
- ・資格取得補助制度や実効性のある資格の周知

## 5. 就職活動支援

- ・授業内外でのキャリア教育の内容の整理、見直し
- ・社会構造の変化を踏まえた将来有望企業について検討
- ・卒業生への「再就職サポート」について実現可能なものを検討

## II 研究

### 1. 大学院の充実

- ・研究科の枠を超えた大学院副専攻プログラムの検討
- ・各研究所、専攻におけるハード・ソフト面での研究環境の整備計画立案
- ・学部生に向けた本学大学院の広報活動計画の立案・実施

### 2. 研究力の向上

- ・重点支援領域及び新規分野（SDGs関連等）の研究支援実施

- ・大学院の教育、研究体制の強化に関する計画の立案
- ・研究力評価の試行実施

### 3. 戦略的な外部資金獲得

- ・研究マネジメント体制の検討、構築
- ・研究改革推進委員会における科研費申請時のピアレビュー実施案の検討

## | III | 社会貢献

### 1. 産学官連携

- ・企業ニーズのデータベースを整理、見える化を工夫し学内に周知
- ・社会問題解決のテーマ選定、対応体制の検討
- ・情報発信の手法検討

### 2. 社会・地域貢献

- ・地域貢献活動における施設・設備・人材に関する問題点の明確化
- ・初等・中等教育機関におけるニーズ調査の検討
- ・BP プログラムの社会ニーズ調査の検討
- ・地域課題について地域連携関係者でヒアリングを実施し、データベースを作成

## | IV | 国際化

### 1. 学生の国際化

- ・AI 技術者育成のための語学研修プログラムとしてバーチャル体験留学の実施

### 2. 国際化に向けた戦略的な留学生獲得

- ・入学から卒業・修了後の進路に至るまでのキャリアパスの明示

### 3. 国際化推進体制の整備

- ・本学の研究レベルの向上を目指した学術的な連携・協力の推進

## | V | 経営

### 1. 組織

- ・委員会活動における効率的運用に向けた改善の検討
- ・新教学システム構築・運用テストの実施

### 2. 人事

- ・能力開発研修等計画の策定
- ・新教員評価、事務職員評価制度の検討・策定

### 3. 財務

- ・新たな寄付金制度（クラウドファンディング等）の検討・企画
- ・新施設の整備基本計画の策定

### 4. 情報発信

- ・大学広報及び年間広報計画の検討
- ・年間入試広報計画の再整理、実施状況を共有

## | VI | 内部質保証

### 1. 内部質保証の組織体制

- ・恒常的な内部質保証の組織体制整備

### 2. 内部質保証のための自己点検・評価

- ・内部質保証のための自主的、自律的な自己点検・評価の実施
- ・IR 推進センターを中心とする学内データの一元化を推進

### 3. 内部質保証の機能性

- ・アセスメントポリシーに従い3つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価

## ■祐誠高等学校

### | 概要 |

福岡県では令和4年3月卒業の中学3年生は前年比で約1,700人増加。久留米市を中心とする第8学区は117人増加だが、小郡市などの第7学区は逆に20人減少となる中、県立の小郡高校と久留米高校はそれぞれ1クラス増となり計80人の定員増となる。特に、久留米高校は近年久留米高校前駅も開業し、令和4年4月に全館新築校舎となる。

加えて、面接(+作文)とで、1月の私立高校専願・推薦入試よりも早く合格を内定する特色化選抜実施の県立高校は3校増え、今回の特色化入試で既に約400人を確保している。

また、筑後地区の他地域の私立高校も比較的生徒数の多い久留米市をターゲットにしている上に西鉄大牟田線沿線の中学校の福岡・筑紫野圏への流出の流れが一層強くなっており、地理的条件からも苦境に立たされている。このような状況の中で生き残っていくには、公立・私立を問わず本校が生徒・保護者に選ばれる学校でなければならない。そのためには、建学の精神に立ち返り「人間味豊かな産業人の育成」を工業科教育の根幹に据え本校独自の特色ある教育を行っていく。普通科においては、令和4年度新入生より一人一台の端末を全員が購入。ICTを活用した教育で、今まで以上の成果が出せるようにする。また、令和4年度が創立満60年になるので後援会等の協力も得ながら校内の教育環境の整備も行っていく。

### | I | 経営改革

#### 1. 業務改善

##### ①校務分掌の見直し

- ・効率よく事務的な作業を進めるため、学務システムを導入しそれに伴って校務の整理を、段階的ではあるが見直しを進めていく
- ・まずは、教務、学級担任及び進路が連動した学務システムを導入する

#### 2. 財政の健全化

##### ①授業料の改定計画

- ・入学者の収入実態を調査・分析して、就学支援金制度の推移を注視しながら、授業料の改定を模索していく

### 3. 将来設計

#### ①人事計画

- ・新しい人材の採用と体制の検討を行う
- ・再雇用満了者数と不足教科を鑑み、常勤講師以上を新規採用する

#### ②新規採用

- ・生徒数並びに今後の学校の体制を検討した上で、計画的に新規採用を行っていく

#### ③設置学科・コースと学則定員の見直し

- ・現状700名の入学定員を現状に見合うように、また、合わせて学科・コースの再編等についても検討を行う
- ・学科再編後の最初の卒業生の進路実績と内容について検討する

### | II | 教育内容の充実

#### 1. 特色ある教育

##### ①特色を出すカリキュラム

- ・情報技術科の新カリキュラム並びにゲームエンジンを搭載した新しいPCで本校しかできない教育・実習を行う
- ・全科において、新教育課程に移行する

##### ②資格取得

- ・工業科の柱でもある資格と国家試験に積極的に取り組みジュニアマイスター取得を目指す
- ・普通旋盤技能士(機械)、三級自動車整備士(自動車)、英語検定2級(航空)、土木施工管理士・測量士補(土木)、ITパスポートなど(情報)

##### ③進学実績

- ・難関国立大学、医学部の合格を目指す(特選)
- ・国公立大学、難関私立大学の合格を目指す(特進)
- ・有名私立大学の合格を目指す(進学)
- ・自己を見つめ、目標を見つけ学習満足度100%を目指す(ドリーム)

#### ④生徒個人端末導入の推進

- ・令和4年度の普通科新入生より、iPad 端末を購入させ、スタディサプリを活用する

#### ⑤就職実績

- ・例年実施している企業訪問を徹底し、県内100社、県外130社の訪問を目標とする

#### ⑥特別講習・課外活動

- ・正規授業に縛られない進路別、習熟度別など効果的な特別講習を計画・実施する
- ・資格取得、進学実績の向上のため、土曜セミナーを含め特別講習・課外授業を展開する

### | III | 生徒数の確保

#### 1. 広報

##### ①創立60周年事業

- ・周年事業は、広報活動の大いなるチャンスであり、後援会、同窓会とも連携し広報活動と学校環境の整備につなげていく。なお、式典等は行わない
- ・鑄造実習室の解体並びに周辺環境整備を実施
- ・記念誌の発行、女子制服について検討を行う

##### ②広報活動の徹底

- ・夏季・秋季のキャンパスウォークの実施
- ・本校単独学校説明会の開催
- ・出前授業、進路講話の実施
- ・中学校PTAによる学校見学会、学校説明会の受入
- ・塾担当の職員による塾訪問と広報活動の実施
- ・中学校担当の職員(全教員)による中学校訪問と生徒の近況報告実施
- ・塾対象の入試、学校説明会の開催
- ・中学校教員対象の学校・入試説明会の開催
- ・ホームページの改良

#### 2. 退学防止

##### ①教職員の情報共有と連携

- ・様々な環境に置かれている生徒に対応するため、職員研修会を積極的に開催する

#### 3. 生徒支援活動

##### ①各種関係機関との連携

- ・児童養護施設、児童相談所などと連携を取り、学年・

保健室等で状況を共有し生徒を支援していく

#### 4. 奨学金

##### ①奨学金制度

- ・令和3年度に変更した新奨学金制度を研究、総括していく
- ・令和2年度奨学金支出からの減を目指す

### | IV | 教育施設の整備

#### 1. 施設改修

##### ①鑄造実習室の解体と整備

- ・鑄造実習室については老朽化し、耐震性能も十分といえる状態ではないため、60周年を節目に西門周辺の環境整備を行う

#### 2. 屋外整備

##### ①グラウンド整備

- ・雨で砂が流れ、小石が露出しているため整備を行う

##### ②周辺の環境整備

- ・正門周辺も老朽化が進んでおり、地域住民と生徒の安全を考え改修の検討を行う

#### 3. 教育教材・設備の更新

##### ①機械科実習室PC更新

- ・今後の実習内容や在り方を十分に研究、協議した上で、パソコンを含めた実習室全体の更新を検討していく

### | V | 多様な連携の展開

#### 1. 地域や大学等との連携

##### ①地域行事への参加と相互協力の推進

- ・上津校区まちづくり振興会の定例会に積極的に参加する
- ・生活指導担当者なども極力参加し、地域の方々に顔を知ってもらおう

##### ②SDGsなど他の研究機関と連携協定の推進

- ・法人内学校との連携授業は継続する
- ・連携協定を締結した第一薬科大学と普通科の「総合的な探求の時間」を活用しながら推進していく



### ③同窓会・後援会との連携

- ・最も信頼できる本校の協力者である卒業生や保護者の協力を得て、生徒への支援を行っていく
- ・鋳造実習室、西門周辺整備事業については、60周年の記念事業として協力をお願いを行う

# ■専門学校 久留米自動車工科大学校

## 概要

18歳人口の減少、若者の自動車離れは久しく問題視されているが、現代はスマートフォンによってもたらされているソフトウェア関連への指向が強くなっている。自動車整備士という職業は、その社会的意義は高いものの、自動車整備専門学校の入学者数は平成27年度の19,400名から令和元年度では17,300名と11%減となっていることから現在の若者から必ずしも指向される分野ではない。しかしながら、世界的な視野で経済を見た場合、自動車産業はやはり安定を保っており、今後の社会生活（社会環境生活を含む）を支える主導的分野である。

現在、様々な情報デバイスの進化により、高度に電子化された自動車は、デジタルネイティブと呼ばれる現代の若者が中心となるべき分野である。本校は職業実践専門課程認定校として、企業と連携しながら高度な職業教育の展開を図り、基礎技術の修得から最先端の整備技術を学ぶことができる専門学校として、教育内容の充実と教育力の強化に向けて取り組む。

学生募集については、本校の特色や教育的魅力を広く周知するために、HPやSNSの活用等電子情報媒体による情報提供の充実・活用を継続する。また、広告代理店が展開する受験媒体を利用した情報提供に積極的に参画するとともに、少人数・リクエスト型のオープンキャンパスの開催により本校入学を志願する学生の確保に努める。

これらの教育内容の充実と効果的な学生募集に取り組む、安定かつ継続した入学生獲得を図り、収入の根幹である学納金収入を確保し、財政収支の改善を実行する。

## 社会貢献できる自動車整備士の育成

### 1. 教育内容の充実

#### ①教育カリキュラム等の見直し

- ・令和3年度のカリキュラム改正によって、企業研究授業を取り入れた。これからの企業が求める人物像や各企業の方向性を直接企業担当者から教授されることで、自らの目標を明確にし、修学意欲を高める。
- ・令和6年度までには、企業の意向（座学中心、実習

中心、企業説明中心など）を十分に反映した授業を確立する

#### ②教育の質向上

- ・実践的職業訓練を旨とする専門学校は、実習授業が主体であるため、新型コロナの影響など社会変化には柔軟に対応し、可能な限り対面授業を実施する
- ・学生による授業評価は継続し、時を置かず検証及び改善に努め、理解しやすい授業の確立と、きめ細やかな学生対応を行う
- ・現代の発達した自動車システムに対応するため、基礎的なプログラミング授業から実車を使った実践的な実習まで幅広い授業を展開する

#### ③教師の教育力向上

- ・新型コロナの影響で中止が続いていた企業の技術研修に関しては、条件が整い次第、積極的に参加する。全教師が1回は参加できるように計画する
- ・研修内容を全ての教師にフィードバックすることで、全教師の質の向上と知識・技術の平準化を図る
- ・多様化する学生に対する指導方法について、専門知識を有する外部講師による教員研修も実施する

## 2. 学生支援の充実

### ①就学支援・既卒生の支援

- ・就学支援は、日本学生支援機構奨学金、民間の教育ローン、学納金の延納・分割など、各家庭の状況に応じて紹介し、学生一人ひとりに対応した支援を継続する
- ・既卒者支援は、入学時の奨学金給付と専門実践教育訓練給付金制度を活用した制度を継続する

### ②就職活動支援

- ・学生と教師の地道な努力とともに、自動車整備士不足も反映し、就職内定率は100%を継続している。これを今後も継続するために職業理解教育の継続、進路指導課とクラス担任との相互協力体制を強化する

### ③退学防止の強化

- ・入学当初からの個人面談による様々な情報の把握、保護者との密な連携は継続する
- ・一人暮らしの学生宅への校外訪問も継続し、学校で

は話せないような悩みや退学につながる小さなきっかけなども把握し、必要な三者面談やカウンセラーに情報をつなぐなど、適切に対応する

- ・卒業生を特別講師として招き、整備士の仕事の魅力や社会的意義についての出張授業を実施し、学生個々の目標設定をより具体化させ、修学意欲の喚起を図る
- ・以上のような対策を施すことで、退学者を在校生数の5%以内に抑える

#### ④教育等の相談の充実

- ・多様化する学生に対応するために、校内に留まらず解決すべき問題に対応する研修があれば、外部研修であっても積極的に参加する
- ・学生の心的状況改善のためのスクールカウンセリングは継続し、合わせて相談しやすい環境づくりに努める

### 3. 地域連携授業の推進

#### ①連携事業の推進

- ・地域コミュニティや諸団体との連携に関わることで、希薄になりつつある社会性を身に付ける
- ・今年度は、広川町との催事連携を検討するほか、周辺地域の催事への協力や周辺高校（八女工業、筑紫台）の文化祭への協力などを予定する

#### ②ボランティア活動の推進

- ・一級自動車工学科3・4年生中心による校外清掃活動の継続、全学科を対象とした年2回の献血は継続する

## Ⅱ 持続可能な経営基盤の整備

### 1. 経営改革の推進

#### ①収支改善の検討・見直し

- ・工学部の目標入学者数を81名、在校生200名とする
- ・支出超過額を△40,000千円台とする

#### ②要員の適正管理

- ・本校全体で年齢構成改善の検討を行う
- ・ピラミッド型の組織構築とともに、必要な要員の確保に努める

### 2. 学生の確保

#### ①WEBサイトの活用推進

- ・特長的なHPの展開、WEB広告を有効活用した広報戦略は継続する。年間を通して検証を行い、速やかな改善を行うことで広報精度を上げていく

#### ②オープンキャンパスの活用

- ・少人数リクエスト型のOCは継続する。説明者によって、説明内容の相違が出ないように検証・改善を行う
- ・来場者には手間を惜しまず、強い印象と出願意欲を喚起するような体験学習を実施する
- ・本年度の来場者の目標は、延べ人数で150名（R3：120名）とし、来場者のうち受験対象者からの出願率を60%以上とする

#### ③学校説明会等の活用

- ・高校内ガイダンス及び会場ガイダンスは内容、地域、進学実績や開催地の出願状況などを考慮し計画的に参加する
- ・本年度は高校内ガイダンス40校、会場ガイダンス10会場の参加を見込む

### 3. 教育施設の整備

#### ①建物・施設の適正維持

- ・本校の建物は建設後、かなりの年数が経過しており劣化が進行している。昨年度には、施設の劣化具合、使用頻度、改修費用等を踏まえた年次改修計画を策定した。
- ・本年度からは、学生にとって必要な安全性と快適性を提供していくため、3号館、5号館の耐震補強工事及びトイレ改修工事を実施する

#### ②教育用備品の整備・充実

- ・学生が日常的に使用するツールボックス及び各種工具が劣化しているため、計画的に更新する

# ■久留米自動車学校

## Ⅰ 概要

自動車学校の産業としての市場規模は、少子化や若者の価値観の変化などを背景に、平成12年の学校数1,508校、卒業生2,019,474人から20年後の令和2年には、学校数1,306校、卒業生1,565,812人と減少しており（警察庁「運転免許統計」）、縮小傾向が著しい状況にある。

新型コロナウイルスの影響によると思われる令和2年度の入校者数増加といった現象についてのその後の動向は未だ不透明であるが、基本的には免許取得者の減少傾向は変わらないと考えられる。総じて自動車学校の経営環境は、今後も困難な状況が続くものと予想される。

このような状況のもと、事業運営にあたっては、自動車に関する新しい技術の進展が運転免許制度に与える影響など長期的視点も持ちながら、ローカル経済圏のなかで経営を行っている収益事業としての経営安定化を図っていくことが必要である。

自動車学校の経営は、基本的には既存事業を継続（ガイドライン等に従って運営）していく形態であり、支出の大半を人件費が占めているため、損益分岐点が高い典型的な装置産業である。したがって市場理解とともに自らの構造上の課題を見据えた経営戦略が欠かせない。今後は、これまでの信頼と伝統に基づく安全・安心な教習を継続しながら、外部環境の把握と自校の経営資金や職員の状況など経営課題の可視化に努め、これらを踏まえた新たな付加価値の創出と持続的成長を目指すための新たな経営方針を確立することに努めることとする。

以上のような基本的考え方を踏まえ、本年度は次のような課題に取組み、収益事業としての安定経営に努めることとする。

## ⅠⅠ 教習の充実

### 1. 教育指導力の向上

#### ①教習生に応じた指導の確立

- ・多様な教習生の特性に応じた指導を行うことにより、教習生の満足度を高めるとともに、安全運転

者の育成を通じた地域貢献を果たす。このため職員間の情報交換や研修機会の確保・充実に導き、指導力向上を目指す。

- ・仮免、本免の合格率向上を図るため個別指導等の促進策を検討する。

#### ②職員のキャリアアップ促進

- ・各指導員の指導力を高めるため、検定員等の資格取得を奨励する取り組みを企画する。
- ・適切な配置替えなどを実施し、職員のキャリアアップを促進する。

#### ③各種講習の充実

- ・企業提携の制度についても必要な見直しを行い、地域における本校の評価を高める。
- ・学校法人内の資源も活用し、提携企業の拡大を図るとともに企業講習等の内容充実を行う。

## Ⅱ 地域・社会貢献の推進

### 1. 交通安全活動の推進

#### ①交通安全活動への参画

- ・教習や各種講習を通じての交通安全啓発のほか、久留米警察署、久留米市交通安全協会、久留米市などの関係機関が企画実施する交通安全にかかる啓発事業に積極的に参加、協力を行い「地域の交通安全センター」としての役割を果たす。

### 2. 地域連携の推進

#### ①行政・地域団体との連携強化

- ・自動車学校の特性と指導員等資源を活用して、久留米市や本校が立地する校区の団体と協力し、独自の交通安全啓発事業や研修会等を企画する。

## Ⅲ 経営力の強化

### 1. 教習生の確保

#### ①広報の充実強化

- ・現在の要員体制においては営業活動に投入可能な人的資源には限界もあるが、これまでに取り組ん

できた営業活動を通じて培ってきた協力先との関係も活用しながら効果的な教習生募集活動を展開する。

- ・組織体制の見直しとともに営業組織の確立、強化を図る。
- ・これまでの広報媒体については、効率性の観点から必要な見直しを図る。

### ②教習生確保対策の効率化

- ・教習生確保対策の一環として制定されている教習料金の各種割引制度については、収入を抑制する要因ともなることから、近隣校の状況も調査、検討した上で適正性の観点から適宜検証と見直しを行うこととする。見直しにあたっては、営業活動との関連を踏まえ、効率化、重点化を図る。

### ③施設・設備の適切な改善

- ・本校の校舎は老朽化が目立つ状態にあることから必要かつ適切な補修等を行い、その機能を確実に維持できるよう図る。
- ・校舎は老朽化とともに、その設計の旧さにより利用者の視点からは快適な教習環境の確保が困難となっているため、将来的な大規模改修や建替えを含めた改善の方向性を検討する。

## 2. 業務の効率化

### ①効率的な組織体制の確立

- ・教習生の入校状況や学校に対する要望に的確に応じた学校運営を図るため、業務執行の効率化を主眼とした組織、要員配置への見直しを行う。
- ・見直しにあたっては、業務の効率化とともに経営課題への対応も踏まえて行うものとする。

### ②経営情報の共有化

- ・経営基盤の安定化と職員育成を目的に各種会議の機会等を利用して、学校内における経営情報の共有化を推進する。また、同時に幹部職員による経営会議の実質的機能強化も図る。

## 3. 収益の確保

### ①収益増加対策

- ・営業活動と並行して料金体系について周辺校をはじめとした状況調査を行い、運営コストの把握と

ともに常時の見直し検討を行うこととする。

- ・長期的な自動車学校の経営環境を見据え、収益増加対策の立場から学校法人内の資源も最大限に活用して新たな事業創出について研究を行う。

# ■ 教習部

## 概要

本校教習部は、福岡労働局から登録を認可された登録教習機関として、10種類の建設車両の資格取得ができる教習機関である。

教習生には安全を意識した操作技術の修得、機械操作や法令、安全の意識を高める知識の習得など、地元事業主をはじめ、広域的に信頼される「高い安全意識を持った建設機械等オペレーターの育成」に努める。

## I | 高い安全意識を持った建設機械等オペレーターの育成

### 1. 教育内容の充実

#### ① 多様な建設機械等の教習

- ・本校は10種類の建設車両の技能講習、実技講習等の受講が可能であり、それに伴う教習用建設機械の種類、数量ともに充実している
- ・これらの教習環境を備えつつ、労働安全衛生法に則り、学科・実技講習を適切に実施する

#### ② 指導員の指導力の強化

- ・計画的な部内研修を実施することで、指導員の指導技術の向上、安全意識の高揚を図る
- ・受講生からの指摘等には真摯に向き合い、速やかに改善を行う

### 2. 教習生支援の充実

#### ① 各講習合格率 100%の達成

- ・受講生の進捗状況にも配慮した指導をすることで、学科及び実技試験の合格率 100%を目指す

#### ② 進捗に合わせた教習指導

- ・進捗の遅い受講生には繰り返しの操作を実施する
- ・普通自動車免許を保有していない初心者については、少人数による丁寧な教習指導を行うことで、一般教習生と同じく合格率 100%を目指す

## II | 持続可能な経営基盤の整備

### 1. 経営改革の推進

#### ① 収支改善の検討・見直し

- ・毎年受講生数 3,050 名を確保することを目標とする
- ・本年度からは業務の効率化と受講者の利便性を考慮し、修了証を郵送へ切り替える

#### ② 要員の適正確保

- ・指導員の高齢化による退職動向に合わせた職員確保に努める

### 2. 学生及び教習生の確保

#### ① 教習生の確保

- ・自衛隊との連携体制は維持する
- ・年間 3 回実施している DM による講習周知は継続して実施するとともに、企業訪問による新規開拓を図る
- ・講習中の受講生に対し、受講時期、受講に当たっての免除項目、受講料金等のメリットがある情報を提供する

### 3. 教育施設の整備

#### ① 建物・施設の適正維持

- ・工学部と同様に教育施設改修計画に沿う形で計画的に施設改修をして適正維持を図って行く

#### ② 教習コース・教習用備品の整備

- ・施設面では、大型特殊自動車用コースの舗装面改修、教習生控室等の整備を検討実施する
- ・実技車両の老朽化が進んでいるため、収支状況を考慮しながら更新に向けた計画を検討する